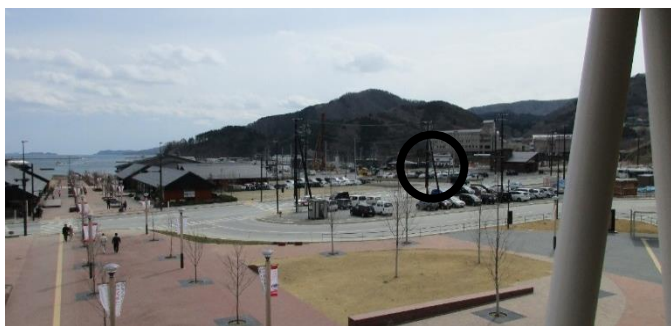


津波の時の避難を考えよう

先日、宮城県からお客様がお見えになりました。この方は、東日本大震災・津波の時、女川町の銀行に勤めていた息子さんを亡くされました。この銀行では、上司が二階建ての建物の屋上へ指示をして13人の行員が避難しました。想定外の高さの津波により、12人が犠牲となりました。4人が亡くなり、8人が行方不明のままです。1人は奇跡的に救出されたそうです。ただ、残念なことは、ここには走れば1分くらいで避難のできる高台があったのです。高台へ避難をした人々は助かっていたのに、という悔しい気持ちがあるでしょう。



上の写真は、昨年私(館長)が訪問した女川町の今の町並みです。黒丸の附近にこの銀行があったようです。後ろ側に見える大きなビルは病院で、そこから山へ登れるのです。

大災害の時の避難というのは、非常に難しいと思います。100点満点の正解はないでしょう。そして、想定というのも理論的な意味合い



があるので、実際の食い違いはもちろんあるでしょう。だからこそ、もう一段の安全・安心を求めなければならない。この方の見学の様子

は朝日新聞が取材され掲載されました。

第5回稲むらの火講座を 開催いたします

平成27年から始まった「稲むらの火講座」の第5回目を開催いたします。

日時 平成29年3月4日(土)午後1時～
場所 稲むらの火の館3階
講師 中筋 章夫先生

講師のご紹介

*和歌山大学災害科学研究センターコーディネーター

*和歌山市西山東地区防災会アドバイザー

*和歌山市中学校特別非常勤講師



地域防災・防災教育を専門として、地域防災のアドバイザーとして防災活動の企画運営に携わられています。

演題 「災害に強い地域づくり」

中筋先生は、和歌山大学での防災教育のコーディネーターとして活躍されるだけでなく、地域での自主防災のアドバイスをされたりという、幅の広い活動をされています。

今回の講演は、特に自主防災組織の関係者の皆様にも是非聞いていただきたいお話だと考えています。先生の普段の活動の写真を見ながらのお話になると思います。既に、この講演会のために町内を見て回って準備されているようです。

講演会の定員は100名です。申し込み順とさせていただきます。

電話 0737-64-1760まで。

FAX 0737-64-1761でも結構です。

濱口大明神縁起

濱田康三郎(かわせみより)

1903(明治36)年5月13日夜のことであった。

ロンドン市ハノヴァ・スクエア20番地の日本協会々館のホールでは、今、一日本青年紳士の『日本歴史上の顕著なる婦人』と題する長い講演が、満堂の盛んな拍手喝采の裡に終って、吉例の随意討論が会員の間に仕交されているところであった。

演題が演題であったからであろう、今晚の講演会は近頃に珍しい大入で、婦人会員の出席の何時になく多かったのが誰の目にもすぐついた。

東西両洋の同盟島国間の交情を、相互の国民性を一層深く研究、理解してますます親密にしようとする大きい理想をもった、ロンドン在住の日本人とイギリス人との集団である。

此の協会の会員同志には、堅苦しい遠慮はあまりなかった。思い思いの質問や議論がそれからそれへと、主としてイギリス人会員の側からとび出した。自分自身ではひとかどの日本通をもって任じてはいても、さて実際にその国を訪ねたことのあるものはそう沢山ある筈はなく、その大部分は或は自分の職業から、或は少数の在留日本人との交際から、或はお伽噺のような物語を通しての好奇心から、日本に関する知識と興味とを比較的多くもっているという程度の好事家たるに過ぎなかった、それら会員の講演者に対する質問や議論は、自然、ともすると正しい的を外れた、見当ちがいの、それも現代にかかはるものになり勝ちで、同席の日本人会員の苦笑をそそった。然し、それでも年若い講演者は飽くまでも真面目な態度で、その都度々々親切な答弁をした。ただその説くところの現代日本婦人は、主として上流社会の新時代的な女性であって、質問者の多数の興味の中心となっているように見えた『ムスメ』や『ゲイシャ・ガール』などに言及しなければならない場合に、彼は内気な少年のように両の頬をうすく赤らめた。

(つづく)

「濱口梧陵国際賞」創設の経緯

「濱口梧陵国際賞」を創設することに尽力された関西大学河田恵昭先生が、(一般財団法人)港湾空港総合技術センターの広報紙「SCOPE NET 76号」での談話です。

2015年3月に仙台で開催された国連防災世界会議で、内閣官房と外務省から「世界津波の日」制定の提案がなされ、その後、12月の国連総会で全会一致で採択されました。しかし、制定されても何もしないままだと「11月5日は『世界津波の日』です」というだけで終わってしまう。それでは、何のために努力して制定したかわからないじゃないかと。そこで、急遽、今年1月の阪神・淡路大震災21周年の記念シンポジウムの際に、関係者らで何かやらないといけないという話になりました。関係者が多い中で、誰かが中心となって動かさなければと私が申し出て、任せていただき活動が始まりました。ではどうするか。日本は世界的な英雄が少ないので、濱口梧陵を世界の英雄にしよう。和歌山出身の二階衆議院議員からも、濱口梧陵や和歌山県がやってきたことを世界の人に知ってもらいたいという話が出て、濱口梧陵を顕彰する賞を設けたらどうかと動き始めたのです。当初から「濱口梧陵国際賞」を創設するという話があったわけではなく、何か形のあるものを継続しないと、立ち消えになるという思いで進めてきました。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

Tel : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/4)

*記念館だけの入場は無料です。

